

タイラギの垂下養殖に成功

水産業システム研究センター

研究の背景・目的

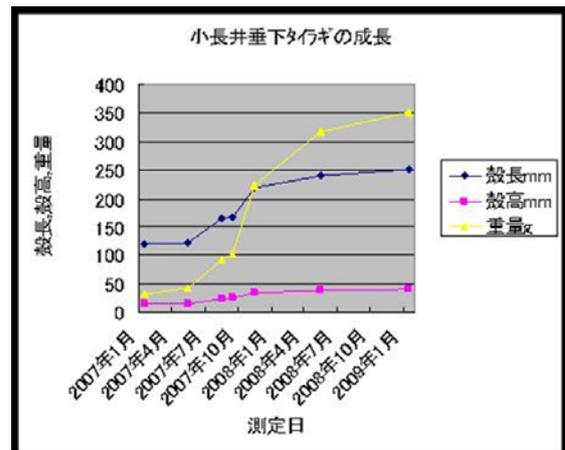
1. 干潟の減少、環境の悪化により、天然資源が減少しているため、本来は干潟の埋在性二枚貝であるタイラギを、垂下養殖法を開発することで増産を図る。

研究成果

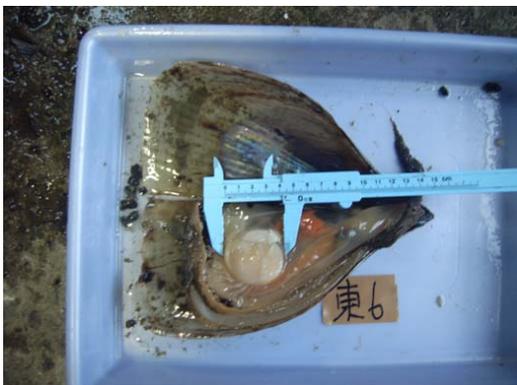
1. カキ筏などの施設を利用した養殖試験を実施した。その結果天然と同等の成長が得られ、10cmサイズの稚貝を25ヶ月で、25cm、350gに成長させることができた。
2. 安価なバッグ、軽量の基質を使用することで、採算性及び作業性が向上し、利益が見込めるようになった。

波及効果

天然海域からタイラギ種苗を大量に採取することで、新たな養殖産業に拡大、発展する可能性が出てきた。



10cmサイズの稚貝が25ヶ月で25cm、350gに成長



養殖でできた貝柱(約4センチ)



養殖バッグで採取された稚貝

(養殖工学タスクグループ: 高木儀昌・大村智宏)